

Up Down 方式経営の実践

【例Ⅱ】「設備投資問題」

設備投資しようか？先行投資しようか？

これらの問題は、「給与問題」と同様、様々な視点からのアプローチが必要だ。

そして、最終的には財務的判断が問われる。

新二刀流経営と言われる Up Down 方式経営では、繰り返し述べているように設備投資に関連する二項目との分析と会社の今の「決算評価」が重要となる。

費用と同様に、設備（減価償却資産あるいは有形固定資産）と売上が現在同時に増加しているのか、今度の設備投資で、売上が伸びるのか変わらないのか考えなくてはならない。両方伸びるのが理想だ。

次に今度の設備投資による償却費など費用が増加しても、いずれ営業利益が増加するという見込みがあるのか。今現在の会社の景気はどうか、今後どうなるのか（決算評価書の作成）考察しなくてはならない。

設備投資に対する理論的根拠、裏付けを考察しておかなければならない。

「給与問題」については、(有)鈴木会計事務所のホームページで紹介している。

設備と同時に分析すべき相手の項目は、売上や利益のみではない。借入金や純資産やキャッシュ（預金）の増減も問題にしなくてはならない。

自在に考えることこそ重要である。